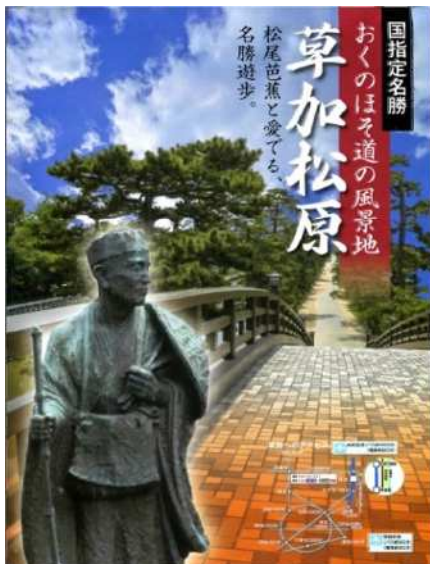


【草加松原 “ビック盆栽ロード”】

国指定名勝—おくのほそ道の風景地「草加松原」



平成 26 年 3 月 18 日、松尾芭蕉の「おくのほそ道」に関連する優れた風致景観の 10 県 13 件(*)の一つとして、草加松原が、国の名勝に指定されました。

(*)平成 27 年 10 月 7 日現在、11 県 24 件が指定。

草加松原は「おくのほそ道」に登場する草加宿の北側に位置し、江戸時代から日光街道の名所として知られてきました。



大きな盆栽のような松並木の草加松原は、綾瀬川沿い 1.5 km に及ぶ石畳の散策路として整備されています。

幹回り 2 メートルにもなる老木を含め、今なお「おくのほそ道」の時代の雰囲気伝える風致景観として評価されました。

【松尾芭蕉と “ビック盆栽ロード”】

松尾芭蕉（江戸時代の俳人）は門人の曾良を伴い、古代の和歌に詠まれた名所・旧跡を訪ねて本州北部を日本海にそって旅をして、紀行文「おくのほそ道」を完成させました。



芭蕉は深川を出発し、船で千住に向かい草加にたどり着き、



「もし生きて帰らばと、定めなき頼みの末をかけ、その日やうやう草加といふ宿にたどり着きにけり」と「おくのほそ道」に記しています。

草加松原遊歩道は、幹回り 2 メートルにも及ぶ老木を含めて、「おくのほそ道」の時代を感じさせる雰囲気は今なお残しています。



【ピック盆栽ロードの歴史】

草加松原の松は、1630年に草加宿が開かれたとき、または1683年の綾瀬川が改修された際、植えられたとの伝承が残されています。

そして、江戸時代から日光街道の名所として知られてきました。



松尾芭蕉も通った草加松原は手入れや補植を繰り返し、19世紀後半 明治維新の頃には500本を数えるまでになりました。

しかし、成長した木々は1970年頃の経済成長に伴う大気汚染によって60本程度にまで減少してしまいました。



そこで松の保護運動が高まり、1976年に「草加松並木保存会」が発足しました。

多くの市民の皆様により松並木の手入れや若木の補植が行われました。



現在、その本数は東京スカイツリーの高さ 634m にちなんで 634 本になっています。

草加松原遊歩道は訪れる人の憩いの場になっています。



あなたに歩いてほしい道があります。

A path for an enjoyable stroll

伝えたい歴史があります。

A history to be passed down

松尾芭蕉も歩いた街道

An old highway MATSUO Basho once walked on

【“ピック 盆栽 ロード”】

国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」